

# ~~~~~一年生統一集会の総括として~~~~~

7/15

七月八日、一年生統一集会が開かれたのは、参加してハハハクラスがあつたにしてもある面にいっては運動の一歩前進といえるだらう。この問題はすでに、単に校舎をたてるか、たてないかという次元の問題から、建てるることを前提とて、農学部再編の施設的に最低限度保証する校舎であるかどうかという問題に変化してまた。

六月二日の教慶会固交において明大農学部の社会的有効性回復といつ再編の一つの目的を満足するものでは決してよい案が示され以上、私達はようやく案を提出して至るに至り教授会の積極的姿勢をこの集会で追求し新たに確固たら後期分のスケジュールを明らかにす等の要求・抗議・決議を採択した。また今学期までの問題の

展開の仕方で進めてゆけば、この集会が一步の前進でとどまり、次の一步へかかる場とはなり得ないのであるが、再編の目標が学生自らの研究を進め得るため設備を制度的に保証することであると、つゝ今までの考え方には現在に生きてる私達にとってあまりにも平易すぎるのであるが、どう反対者が二・三のスラスからでまじに問題をもと素朴に考えてみて、校舎がたつれば、農学部とて有効性を發揮しきるにむかうが、まことに農業技術者が一人の人間とて社会に入りて時、全ての人間に對て有益に活動してゆく事ができるかと云ふと、校舎がたつ終ると、つねに組織の元に問題を抱えて「どうせ」は、どうしてか矛盾が生じる。ヨーロッパの問題に階段がある——→農学部校舎問題は一つの階段である。それゆえ再編を私達の手で実質化してゆくには、この階段を走る所以で登り下りへゆく必要があるのではあるが、ついで長く夏休みがくるが、この間に来学期の運動の方向をつけて、いつまでもつづける事で方向にゆくが、再編とは何か——どう問題を再唐名までこころえ直してゆくことを提案したい。